

## 大通地区のエリアマネジメント推進（北海道・札幌市）

札幌・大通地区の商店街が連携し、オープンカフェの恒常的实施による賑わいの確保とともに、景観への配慮と収益確保を両立する、地下街出入口等における「エリアマネジメント広告」※により、民間主体の持続性のあるまちづくり活動につなげていく。

※エリアマネジメント広告…景観に配慮した屋外広告の管理を行い、その収入をまちづくり活動に活用



↑ 大通公園



↑ オープンカフェイメージ



エリアマネジメント広告  
(地下街出入口)イメージ→

### 平成20年度の主な取組

- ① 大通地区の歩道を活用した恒常的なオープンカフェの実施
- ② 国の広告物取扱指針に基づいた、地下街出入口等への広告物の掲出実験等

### 平成21年度以降の展開

20年度の取り組み成果を踏まえ、大通まちづくり会社(仮称)の設立、まちづくり会社によるオープンカフェ事業及びエリアマネジメント広告事業の本格実施へと展開。会社運営の安定化や賑わい回復と共にまちづくりの更なる展開を図る。

## 洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想における官民協同型運営に向けた人材育成事業（北海道・伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町）

広域連携による「地域住民の学習の場の創出」「火山との共生の歴史の伝承ー将来の減災」「産業の育成と観光振興の推進」を目指す『エコミュージアム構想』の更なる定着を図るため、地域主体の運営となり得る人材の発掘・育成・ネットワーク化等を実施。



↑ 洞爺湖と有珠山



↑ 昭和新山



↑ 火口探索路(有珠山)



↑ 森林再生授業

### 平成20年度の主な取組

- ① 各地域住民での知識やノウハウの共有、ネットワーク化のための地域住民団体の交流体験会、エコミュージアムガイド育成講座の実施
- ② 地域の方針づくりを官民協働で行うためのエコミュージアム住民エリア会議の実施

### 平成21年度以降の展開

20年度に構築したネットワークを活用し、民間企業とも連携したエコミュージアムの本格的なプロモーション活動を行うことなどを通じて、観光客数増、災害文化の継承、生活圏の創出などによる地域活性化と地域防災力の向上を図る。

## 『笑友(エミュー)』で再生！あばしり元気プロジェクト

～地域内循環型ビジネスの実証研究～（北海道網走市、置戸町、斜里町）

厳しい地域経済状況の中、低カロリー食肉や保湿性のあるオイル等の事業化が見込めるエミューを新しい地域資源として活用するため、飼育実証実験等を通じて生産から加工・販売まで一貫して行い、地域内で付加価値を最大限に高めるビジネスモデルの確立を目指す。



↑  
エミューオイルを  
活用した肌クリーム

↑ エミュー

### 平成20年度の主な取組

- ① 簡易牧場を設置し、飼育実証実験（新規エミュー飼育者の育成・適正な孵化条件確立）の実施。
- ② エミュー製品（オイル、肉等）の加工・製造技術確立のための試験や消費者市場マーケティング調査の実施。

### 平成21年度以降の展開

孵化技術を更に高めるための飼育実証実験を実施するとともに、エミュー製品加工・製造技術指導マニュアルを作成し技術者を育成することや、サテライトショップを通じた販売促進、料理店での試験的な調理、販売等により販路の拡大・確立を図る。将来的には観光産業としての発展も視野。

## 船が生まれ変わるまち室蘭プロジェクト（北海道・室蘭市）

安全かつ環境上適正なシップ（船舶）リサイクルへの取組が国際的に進められる中、廃船の解体につき、生産縮小に伴い休眠状態にある既存の造船所や製鉄所の施設を活用し、産学官連携により、解体処理から高付加価値製品への再生に至るまでの一連の事業を通して、地域産業の新たな展開を図る。



造船所の様子(イメージ)



廃船スクラップ(海技研撮影)

### 平成20年度の主な取組

- ① 船舶鉄スクラップの自動車用鋳鉄部品等高付加価値製品への再生
- ② 既存の造船・港湾設備を活用した高効率な解体手順の確立
- ③ 資源・廃棄物の分別手法並びに輸送及び炉挿入システムの最適化

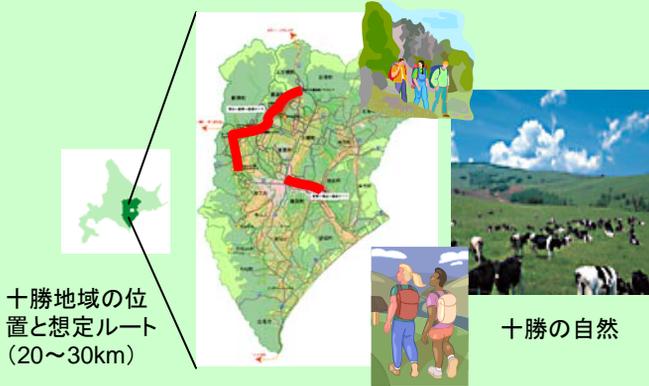
### 平成21年度以降の展開

室蘭市の造船所や製鉄所等を最大限に活用したシップリサイクルシステムの検証を行い、室蘭地域において、経済性及び環境への配慮を踏まえたシップリサイクルを本格的に事業として展開し、さらには他地域への展開を図る。

## とかちロングトレイルによる農業・商業・工業の活性化

(北海道・新得町、鹿追町、清水町、上士幌町、士幌町、音更町、芽室町、帯広市(十勝西部圏域))

大雪・十勝連山に代表される雄大な自然景観や、豊富な農畜産物等の地域資源を有する十勝地域において、健康や環境をキーワードとする「地域をゆっくり歩く旅(ロングトレイル)」の展開を通じ、新たな観光スタイルの定着を図るとともに地域内産業(農業、商業、農産物加工業)との連携による産業振興を図る。



### 平成20年度の主な取組

- ① 想定ルート(20~30km)の走破実験を踏まえ、情報提示や送迎のシステムなど必要な機能やサービス体制を評価
- ② ロングトレイルによる地域づくりシンポジウム開催
- ③ 地域資源発掘等のための地域ワークショップ開催

### 平成21年度以降の展開

ロングトレイルという新たな旅のスタイルの定着と、十勝地域の地域資源(農村景観、農産品等)の知名度向上を目的に、ルート情報や農産品等のロングトレイルに関する情報提供システム、観光客受入体制、ガイド人材育成など事業展開に向けた環境整備に取り組む。

## 「恵庭型プレイセンター」社会実験プロジェクト (北海道・恵庭市)

乳幼児(3歳以下)の多くが在宅育児であり、転入者が多く家庭と地域の結びつきが薄い地域の現状を踏まえ、親が協働で運営する幼児教育・保育のシステム「プレイセンター」の立ち上げ及び普及により、社会的課題でもある地域と連携した子育て環境のモデルを構築する。



### 平成20年度の主な取組

- ① 地域の育児環境の改善を推進するためのプレイセンターの立ち上げ支援
- ② コーディネータの養成のための講習会等の実施
- ③ 育児の効果と課題を明らかにするための近隣教育・研究機関との共同研究

### 平成21年度以降の展開

20年度の実施成果を踏まえ、プレイセンターの本格展開、活動拠点の拡大、連絡協議会の設置等を推進し、地域と連携した子育て環境の実現を目指す。

## 「てんぽくツーリズム・ブランドの確立」にむけた基礎調査と社会実験 (北海道・幌延町、天塩町、遠別町)

必ずしも有名観光地としては認知されていないものの魅力的な地域資源を有する留萌北部地域において、複数町の民間団体が主体的に連携し、豊かな自然や食などの地域資源の有機的な結合により地域の魅力を最大限に引き出すとともに、この取組を組織的・持続的に高める体制の確立を図る。



冬季に完全凍結した天塩川での体験交流

豊かな海産資源を活かした商品



### 平成20年度の主な取組

- ① 地域住民による体験交流活動を活かしたモデルツアーの実施。
- ② 地元農業高校と連携した商品開発及び漁協を中心としたトレーサビリティシステムの構築のための実証実験の実施。
- ③ 来訪者等データベースの構築及びツーリズム担い手育成システムの検討。

### 平成21年度以降の展開

試行を踏まえたツアーの実施や開発商品の販売、トレーサビリティシステム及びマーケティングシステムの構築、人材育成システムの稼働等を行うとともに、これらの取組を踏まえ、ツーリズムマネジメント組織を設立し、「てんぽくツーリズム・ブランド」の確立を図る。

## 士別羊のブランド化への挑戦～士別羊を松阪牛や神戸牛を上回るブランド肉に～ (北海道・士別市)

近年、羊肉に対する消費者からの関心が高まる中で、長年にわたる羊の飼養により蓄積された安全・安心な高品質肉の生産技術をもとに、サフォーク種の羊をブランド肉に押し上げ、高付加価値化と観光資源化を図り、農業経営の多様化・安定化を図る。



サフォーク種の羊

急速冷凍した士別羊肉



### 平成20年度の主な取組

- ① 通年で安定的に高品質な羊肉を提供するため、季節外繁殖のための人工授精の実験、急速冷凍実験、格付けを含む肉質評価方法を検討。
- ② 農家での飼養実験、新規生産農家への指導体制の確立。
- ③ 新たな羊料理・加工食品の試作、士別羊を活用した「観て・食べて・体験」できる観光商品の検討。

### 平成21年度以降の展開

大都市圏への通年安定出荷・販路拡大及び新規農家の参入等により羊の飼養頭数を計画的に拡大するとともに、羊肉加工食品の販売や体験交流施設等の拠点整備と連携した観光商品の提供により、ブランド「士別羊」の確立、農業経営の多様化・安定化、雇用の創出、観光振興を実現。

## 外国人ドライブ観光の総合支援プロジェクト (北海道稚内市、豊富町、猿払村、利尻町、利尻富士町、礼文町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、函館市、北斗市)

増加するアジア諸国等の外国人観光客に対し、広大な北海道内を周遊することによる交流や消費機会を創出するためにはドライブ観光メニューの提供が重要。このため、地域や自然を道でつなぐ「シーニックバイウェイ」各ルートにおいて、多言語による支援サービスの充実や地域の情報発信等を展開。



↑ 宗谷サンセットロード



↑  
噴火湾パノラマパーク  
前町道

### 平成20年度の主な取組

- ① 外国人観光客へのドライブ観光メニューの情報発信やモデル地域での支援サービスの検討、これらのサービスを提供するための体制づくり
- ② モニターツアーの実施による①の検証

### 平成21年度以降の展開

モデル地域を段階的に拡大し、拡大した地域での支援サービスの実施・検証等により外国人ドライブ観光客の支援体制を構築し、これを全道で運用することにより来道する外国人観光客の増加と地域経済の活性化を図る。